



## イギリス

### 高齢者施設への対策を速やかに

- Which? ホームページ [https://campaigns.which.co.uk/care-system/?utm\\_source=whichcampaigns&utm\\_medium=website&utm\\_campaign=care/](https://campaigns.which.co.uk/care-system/?utm_source=whichcampaigns&utm_medium=website&utm_campaign=care/)
- CMA ホームページ <https://www.gov.uk/government/publications/care-homes-market-study-summary-of-final-report/care-homes-market-study-summary-of-final-report> ほか

孤独担当大臣が新設されるなど、急速に進む高齢社会の問題は深刻だ。イングランド・ウェールズでは現在約43万人が約11,300カ所の高齢者施設(ケアホーム)に入所しているが、地域によっては既にベッド数不足が指摘されている。しかも、2025年には65歳以上の約280万人にケアが必要になるという。

ケアホームを選ぶ際、料金・スタッフ・設備などの情報が不足しているのが現状だ。CQC(ケアの質委員会)の最新の報告では、大手の事業者でも設備やスタッフなどの質が「不可」「要改善」と評価されるところが多かった。Which?にも「介護の質、量ともに不十分で不満」「人手不足を理由に突然強制退去させられ、そのストレスが死期を早めた」「虐待を受けた」など非道な体験談が多く寄せられている。

Which?は「ケア(システム)にケアが必要、今すぐ(Care needs care now)」と銘打ったキャンペーンを行い、政府主導の対策を要求している。2017年11月にはCMA(公正取引委員会)により、持続可能性が懸念される当該市場と消費者保護の改善のため、政府による対策の必要性が報告された。このCMA報告やCQCによるベッド数不足の警告等を受け、政府は2018年夏までに「高齢者ケアの危機への提言(緑書)」を発表するとしたが、Which?は2022年には42,000人分のケアホームが不足するとしてより速やかな対策実施を要請している。

Which?は高齢者ケアのサイトを設け、各地方の民間・公営施設の探し方やCQCの格付け、費用や公的補助、契約書のチェック項目、トラブルの相談方法など、広範囲の情報を提供している。



## 香港

### 予防医療サービスの申し込みは慎重に

- HKCC(香港消費者委員会) ホームページ [https://www.consumer.org.hk/ws\\_en/news/press/494/vaccination-body-check.html](https://www.consumer.org.hk/ws_en/news/press/494/vaccination-body-check.html) ほか

消費者の健康意識が高まり(香港は平均寿命世界1位)、任意の高額な健康診断や予防接種などへの出費もいとわない。苦情も急増し、2017年11月までに前年(23件)を大きく超える400件以上の相談(主に予防接種関連)がHKCC(香港消費者委員会)に寄せられた。以下、相談事例を紹介する。

**事例1** 3回接種するワクチン(4,500香港ドル\*)の2回目終了後、実施者の医療センターからワクチンの品不足で3回目ができないと言われ、効果が無くなる不安と接種のために要した経費等損失を被った。

**事例2** 電話勧誘を受け会社Aの健診パックに申し込んだところ、後日想定の3倍の金額を請求されたうえに、会社Aの名をかたって「未利用のサービスが医療センターXに残っており、追加の健診を申し込まないとそれらが失効する」旨のメールが届いた。

何度も会社Aに連絡を取ろうと試みたが、つながらない。

**事例3** 申し込んだ健診のほかに高額な検査(3,700香港ドル)も勧められ追加。後日、検査値が異常であるとして早急の再検査を勧められ申し込んだが、不審に思い病院で受診したところ異常なしだった。

**事例1**では、HKCCの調停に対し医療センターがワクチンの手配は不可能とし、未接種分の返金に応じた。**事例2**では、HKCCが医療センターXと連絡を取ったところ会社Aとの関連はないと否定したが、残りの健診サービスについての交渉に同意した。**事例3**では、検査しなかった分の返金で合意した。

HKCCは、予防接種や健診プランの購入に際し「必ず家族や医師に相談する」「契約書の写し・領収書を要求する」などをアドバイスしている。

\* 1香港ドル=約13円



## ドイツ

## 咳を鎮める薬はあるの？

●エコ・テスト出版『エコ・テスト』2018年1月号 [https://www.oekotest.de/gesundheitsmedikamente/24-Hustenmittel-im-Test\\_110535\\_1.html](https://www.oekotest.de/gesundheitsmedikamente/24-Hustenmittel-im-Test_110535_1.html)

風邪を引くと辛いのが、止まらない咳である。まずは「乾いた咳」で始まり、やがて、痰が絡んだ「湿った咳」に移ることが多い。特に、夜間の激しい咳は身体への負担が大きいため、処方箋不要の咳止め剤で対処する消費者も少なくない。

そこで、『エコ・テスト』では、処方箋不要の咳止め剤24商品(乾いた咳用9商品、湿った咳用15商品)のテストを行った。形状は錠剤、カプセル剤、シロップ剤、発泡性錠剤等で、植物性の有効成分を配合した商品は3分の2に上った。もっとも、同誌は風邪を根本的に治す医薬品はないと考えていることから、咳の症状を緩和する効果があるのかという観点のテストとなった。効果を判定するに当たり、薬学の専門家の鑑定を参考にした。

その結果、5商品(湿った咳用4商品、乾いた咳

用1商品)が「非常に良い」または「良い」という高評価となった。このうち、湿った咳用の4商品は、サクラソウ属植物の根にタイムを組み合わせたなど、植物性の有効成分を配合した商品だった。一方、乾いた咳用の1商品は、デキストロメトルファンを配合したシロップ剤だった。なお、評価があまり高くなかった植物成分配合商品は、学術的論拠が不十分という理由だった。

同誌は、咳がひどくても必ずしも咳止め剤が必要なのではないが、医薬品を服用したい場合は、症状に合った商品を選ぶよう助言する。また、水分を十分取るよう勧め、のど飴でも短時間なら咳の辛さを緩和できるとする。さらに、咳が3週間以上続くときは、医師の診察を受けるよう勧めている。



## オーストリア

## ウィーンの冬の味覚「焼き栗」をテスト

●ウィーン労働者会議所 ホームページ [https://wien.arbeiterkammer.at/beratung/konsumentenschutz/essenundtrinken/AK\\_Test\\_Maroni.html](https://wien.arbeiterkammer.at/beratung/konsumentenschutz/essenundtrinken/AK_Test_Maroni.html)

寒さが厳しいウィーンで、冷え切った体を温めてくれるのが焼き栗である。秋から冬の終わり(3月末)にかけて、市内の200カ所近くに屋台が登場する。焼き栗のほか、焼きポテト、ポテトパンケーキも一緒に販売されることが多い。原料の栗はトルコ産、イタリア産が中心で、焼き釜の中で栗がはじけないように、皮に切れ目を入れている。

ウィーン労働者会議所は、焼き栗の品質を調べるため、民間研究機関の協力を得て、市内の屋台で販売されている商品の抜き取りテストを行った。特に人通りの多い場所に出ている38の屋台を選び、それぞれ35～40個程度の焼き栗を購入した。

その結果、皮がむけない栗285個、かびの生えた栗80個、虫食い栗35個などが見つかり、5分の1以上の栗に問題があると判断された。この中で、

抜き取り品のすべてが正常だった屋台が2軒あった一方で、食べられない栗が過半数を占める屋台も3軒あった。食べられない栗が20%以上を占める屋台は、22カ所(57.9%)。だった。14の屋台で1～6個のおまけが付いていたことから、粗悪な栗の混入について、事業者も自覚しているのではないかと同会議所は推測する。逆に、払った代金よりも栗の個数が少ない屋台が3軒あり、この事態は何としても避けなければならないと強調する。

同会議所は、おまけの栗が提供されても、質の悪い栗が完全に帳消しになるわけではないが、提供されないよりは望ましいとする。また、原料の段階から、念入りに品質をチェックするよう事業者に求めている。食べられない栗を手にした消費者には、屋台に苦情を申し出て交換してもらうよう助言する。